

授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	木更津市立真舟小学校
-----	----------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 平成30年度・令和元年度「全国学力・学習状況調査」より
 - ・「量と測定」「図形」の領域において県平均を下回り、定着が図られていない。
 - ・図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することができない。
 - ・評価の観点の技能が低い。
 - ・記述の問題に対して、解答しなかったり、途中で諦めたりしてしまう傾向にある。
 - ・話合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていないと感じている児童が多い。
- 以上の結果から
- ①様々な問題に触れたり、反復練習に取り組んだりすることが不足したりしている。
 - ②自分の考えを表現できていないと感じている児童が多い。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

<確かな学力を育てる算数科指導方法の研究>

～問題解決型学習を通し、対話を活用して表現力を養う算数科～

- ・対話的な深い学びを通じた児童の表現力・活用力の向上 → **学力向上**
- ・児童の学力向上を目指した授業改善による指導力の育成

を目標に研究を進めてきた。特に、領域を「図形」に絞り、問題解決型学習の「広げ深める」「まとめあげる」に重点をおいて研究を進めた。

(1) 系統性をもって研究に取り組む。

(2) 学年研修として取り組む。

ア 授業の流れから考える

イ 授業実践

※反省を生かしての授業展開 ※全国学力・学習状況調査の問題を活用 ※対話活動の充実

3. 具体的な実践

【2学年】「三角形と四角形」

令和元年度は、応用力・活用力を身に付けさせたいと考え、「まとめあげる」に重点をおき、様々な問題に取り組ませた。しかし、新学習指導要領より、第2学年における図形の敷き詰めは、模様の広がりや美しさを実感させることを大切にしている。そこで、令和2年度では模様の広がりや美しさに気付かせるための授業展開を行い、図形の素地となる活動に力を入れた授業に改善した。

【3学年】「三角形」

2学年で敷き詰め模様の中から形を見付ける活動をした児童が3学年になり、前年度での学びを更に高めるために、3学年でも敷き詰め模様から図形を見付ける取組を行った。振り返りで2学年で学んだ敷き詰めを取り入れ、新たに学ぶ正三角形の敷き詰めにつながるようにした。そして、2学年のときと同様に模様の中から形を見付けることで図形が変わっても模様の中に形があることに気付かせるようにした。

【4学年】「垂直・平行と四角形」 【5学年】「面積」

全国学力・学習状況調査の問題を取り入れた。問題を解決するために考えて操作させたり、練習問題に取り入れたりすることで、それまでの学びを活用したり、応用したりして考えられるようにし、習熟を図れるようにした。

4. 成果

- 部会・学年全体で力を入れて研修を進めてきたことで授業の工夫・改善を重ねることができ、一層研修を深めることができた。
- 研究領域を絞り、これまで取り組んできた問題解決型学習の成果を生かしながら研修を進めてきたことで素材の吟味や少人数指導の導入など、児童の実態に合わせた取組を意識して行うことができ、児童の学習意欲の向上にもつながった。
- 表現力に重点をおき、授業の流れの「広げ深める」や「まとめあげる」を中心に、児童の学力向上を目指した授業改善ができるようにと進めてきたことで、表現力の育成にも対話活動を中心に授業内容や学習形態の工夫をすることができ、一人一人の発表・発言の機会も多くなってきた。
- 練習問題に重点を置いたことで、より多くの問題や様々な問題を解くことができ、児童の学びにもつながっていた。

◆担当指導主事から（南房総教育事務所 指導主事 榎本 正信）

- 組織で検証を推進し、「対話活動」の充実や教員の授業力向上がはかられています。